

昨日の問題は・・・



- ①この道具の名前は？
- ②使い方は？

正解は「槍鉋（やりがんな）」です。

これは大工の木を削る道具です。やりの穂先のような形をした刃の形をしています。やり状の刃先を木材に押しつけて、荒けずりした木材の平面を平らに仕上げる道具です。一般的な鉋（かんな：技術の授業で使った長方形の形をしたもの）より使いこなすのが難しいため、今日見られる長方形の木に刃がついている鉋（かんな）にとってかわられました。



鎌倉時代の大工の仕事現場でも使っている人がいます。どこにいるのでしょうか？



技術の教科書 P 61 にもやりがんなで削る宮大工の小川三夫さんの写真と文章が載っていますよ。